

山田詠美の『PAY DAY!!!』といしいしんじの『プラネタリウムのふたご』

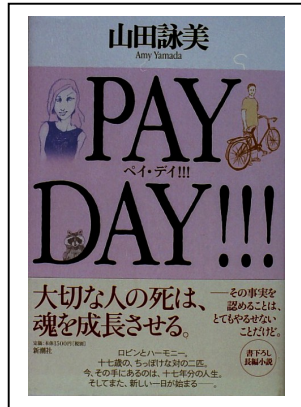
みなさんはどのような夏休みをお過ごしになりましたか?ちっとも夏らしくない夏で、十分に夏休みというものを満喫できなかった方も多いのではないのでしょうか?あるいは逆に、涼しいおかげですっかり元気を回復された方もおられるかも知れませんね。僕といえば、おかげさまで、最近になく印象に残る夏休みだったような気がします。というのは、おかげさですが、ここ数十年の出版史の中でも傑作と呼べるふたごの登場する文学作品に二つも出会うことができたからです。一つは、山田詠美の『PAY DAY!!!』(新潮社)、もう一つはいしいしんじの『プラネタリウムのふたご』(講談社)です。前者が3月の発行で後者が4月ですから、2003年の春は、二月連続で本当に素晴らしい「ふたごもの」を世に送ったこととなります。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、僕は文学研究という夏休みの宿題の読書感想文に毛が生えたか生えないかのような代物をせっせと書き綴ったり、それを元に学生のみなさんに文学作品の面白さや意味を伝えるようなことを生業としています。その中でも特に、ふたご(とそれ以上)の登場する作品(絵本や育児書、マンガ、映画なども)をリストアップしたり、それを読んだりすることを仕事の柱の一つにしています。ふと気がついてみると、マンガを含めて1000冊以上の「ふたごもの」を読んだことになっていました。そしてその経験からしても、この二冊の青春小説は特筆すべき傑作と言ってよいと確信しています。とりわけ、自己を探っている思春期・青春期の方々、そしてふたごをお子さんにお持ちの保護者の皆さんに心から推薦したいと思います。詳しい内容は、みなさんのお楽しみを奪わないためにもここには記しませんが、騙されたと思って、どうぞ本を開いてみてください(どちらかと言えば、『プラネタリウムのふたご』の方がほのぼのとした読後感が残ります。そして、『PAY DAY!!!』は大人やハイ・ティーン向きです)。

ところで、僕はどうしてこんなにふたごの出てくる本をたくさん読むようになったのでしょうか?その理由は、別に自分がふたごだということだけではありません。これも以前どこかで書いたことですが、一つにはどうしても他人の解釈に納得のいかない作品に出会ったことによります(この戯曲はふたごの兄弟争いがテーマ)。でも、それ以上にあるふたごのお母さんとの出会いが大きく影響したと思っています。十数年ほど前のことでした。ふたごを妊娠した知人がおりまして、その方に丁度少し集めていた「ふたごもの」を「胎教」(??)のためにお貸ししたのです。その方は、お貸しした「ふたごもの」を次々と紐解きながら、これから生まれてくるふたごのお子さんのことを色々と想像し、大変励みになったと出産後感謝されたのです。この言葉を聞いた時に、僕はこうしたことを続けてやりたいなあと考えました。さらに、それからしばらくたって、僕の勤める大学の学生のふたごたちが僕の本棚から「ふたごもの」を借り出しては、一生懸命読む姿を目にしました。一般に読書という行為は、自己や世界を考えるきっかけとなる大事な営みですが、ふたごに関してみても、青春期に自分がふたごであることを考えるうえで、ふたごが登場する本を読むことは大きな転機になるようです。

このようにして、色々な所でふたごが出てくる作品や本を紹介し続けているのですが、今僕が一番願っているのは、ふたごの本を通じて、ふたごの仲間たちが自分たちがふたごであることを肯定的に捉えたり、好きになってもらいたいということです。そして、特に小さい仲間たちが絵本を読みながら、自分がふたごであることを喜び、さらに欲を言えば、本というものを好きになって欲しいのです。というのは、本というものは先ほどにも書きましたが、自己や世界を考えるチャンスを与えてくれる素晴らし

いメディアですし、ふたごはどの道、自分とは何かということのを非ふたごよりは頻繁に、そして真剣に考えることになるので、その時に備えて、本を好きになっておくことは決して損にはならないからです。みなさんやお子さんが楽しい素敵な本と出会えることを祈っています。



山田詠美『PAY DAY!!!』書影      いしいしんじ『プラネタリウムのふたご』書影

山田詠美『PAY DAY!!!』新潮社。

いしいしんじ『プラネタリウムのふたご』講談社。

『ツインズぷらす』3号（多胎育児サポートネットワーク）から転載・修正